

日本留学試験対策問題集



ハイレベル

聴解・

聴読解 CD付

編著：アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

■アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

1984年開校の日本語学校。コミュニケーション能力
の養成に力を入れた授業を行っている。

本書の執筆者は、以下のとおりである。

川鍋智子

川崎ます美

難波由美子

内山弘子

佐久間淳子

矢野裕子

近藤英里

宮田陽子

諸橋智美

その他アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ講師

日本留学試験対策問題集

ハイレベル聴解・聴読解 CD付

2002年9月1日 第1刷発行

著者 アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

発行 株式会社アスク

〒162-8558東京都新宿区下宮比町2-6

TEL 03-3267-6866

<http://www.ask-digital.co.jp/>

発行人 天谷修身

印刷 大日本印刷株式会社

許可なしに転載、複製することを禁じます

© Academy of Language Arts 2002

Printed in Japan

ISBN4-87217-421-6

日本留学試験対策問題集

ハイレベル

聴解・ 聴読解

編著：ア

江苏工业学院图书馆
藏书章

ASK CO., LTD.

はじめに

日本への留学を希望する学生のための「日本留学試験」が、新たに始まりました。この試験では、「ことば＝問題解決のための道具」ととらえています。そのため、日本の高等教育機関に入学する留学生が、実際の生活場面で円滑にコミュニケーションできる日本語をどれだけ身につけているかを測る、ということが大きな目的の一つになっています。

こうした日本語を身につけるには、当然ながら「教科書を読み、辞書を引き、暗記する」といった従来の方法では、あまり成果が上がりません。

そこで有効なのが、アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツで授業の基本としている「コミュニケーション能力養成」の方法です。私たちは常に「どんな場面で、どんな日本語が必要なのか」を分析し、文法や語彙のレベルと実用性とのバランスをとりながら「使える日本語」を教える、という授業をしています。新しい「日本留学試験」対策として、こうした私たちの教え方は、そのまま活用できます。さらに今回は、留学を目的とする日本語学習者に的をしぼって、必要な場面を選び抜き、その場面の問題解決にふさわしい日本語を問う、という形で、実際の試験と同じ形式の問題を作りました。

場面や内容、難易度はヴァリエティに富み、解答するには「読む・書く・聞く・話す」ということばの技能だけでなく、常識や推論といったプラスαの能力も必要です。

ですから、この問題集は、試験対策として役立つばかりではなく、日本で日本語を使って生活する外国人にとっての「生活便利ツール」でもあるのです。また、今の日本についての生きた情報も飾らず隠さず盛りこんであります。

みなさんには、ぜひこの問題集を、読み物として道具として活用していただき、楽しい「日本語の生活」を送ってほしいと願っています。

アカデミー・オブ・ランゲージ・アーツ

川鍋 智子

目次

はじめに 3

本書について 6

学ぶ①

1. オリエンテーション① 10
■コラム：どんなことを学ぶのか
2. オリエンテーション② 14
■コラム：キャンパスのIT化
3. 授業に出る 18
■コラム：新しいジャンル〈学際型学問〉
4. 講義① 人文科学 22
■コラム：注目の新トレンド① 人文科学
5. 講義② 社会科学 26
■コラム：注目の新トレンド② 社会科学
6. 講義③ 自然科学 30
■コラム：注目の新トレンド③ 自然科学
- ◆◆ チェック！ カタカナ語 34

学ぶ②

7. ゼミで発表する 36
■コラム：〈敬語にならない敬語〉に注意！
8. 討論する 40
■コラム：討論で上手に使いたい「ね」
9. レポート・論文を書く 44
■コラム：文末の表現でグレードアップ
10. 試験を受ける 48
■コラム：試験のための（？）記憶術
- ◆◆ チェック！ 促音・濁音 52

キャンパスライフ

11. 学生課で 54
 ■コラム：ていねいな話し方のコツ
12. 図書館で 58
 ■コラム：図書館で本を探すには
13. 友人との交流 62
 ■コラム：大盛況・日本的ファストフードの秘密
14. サークル活動 66
 ■コラム：資格試験から居酒屋まで 何でもどうぞ
- ◆ チェック! 長音・拗音 70

社会生活

15. 暮らし 72
 ■コラム：コンビニなしでは暮らせない!?
16. アルバイト 76
 ■コラム：日本の代表的な名字は?
17. 交通機関を利用する 80
 ■コラム：世界一? 日本の地下鉄
18. マスメディアを利用する 84
 ■コラム：暮らしに欠かせない天気予報
19. トラブル処理 88
 ■コラム：火事ですか、救急ですか

本書について

1 全体の構成

本書は、19の場面、チェック、索引から成り立っています。

19の場面では、日本の大学生活で出会うであろう場面を想定しながら、学習を進めていきます。

チェックのページでは、「カタカナ語」「促音・濁音」「長音・拗音」の聞きとり練習ができます。アカデミックな練習から少し離れて、頭をリフレッシュしてみましょう。このページには解答は付いていませんので、繰り返し聞いて力を付けてください。

索引ページは、各課の「重要表現／文法」でとりあげた項目を載せました。

2 各場面の構成

場面ごとに以下の構成になっています。

1 関連語句

留学生の日本での社会生活、学生生活のなかの特定の場面で使われることばをあげています。特に、いわゆる日本語教科書のなかには出てこないようなことばを優先的に選んであります。

2 コラム

「今の日本」がわかる楽しくて役にたつ情報がたくさん盛り込まれています。その場面に関連する最新のトレンドやことばの使い方のコツ、果ては生活サバイバル術まで、あらゆる切り口で現代の日本をとらえ、おもしろい読み物になっています。

3 聴解問題の解答欄

聴読解問題の視覚情報と選択肢

実際の試験と同様の長さや形式の問題が、聴解問題、聴読解問題1問ずつあります。内容も日本留学試験が目的とする「問題解決能力を問う」という方向に合致しています。

問題そのものはCDに収録されています。

問題の解答は巻末にまとめてあります。

4 スクリプト

CDに収録されている問題をすべてスクリプトにしてあります。

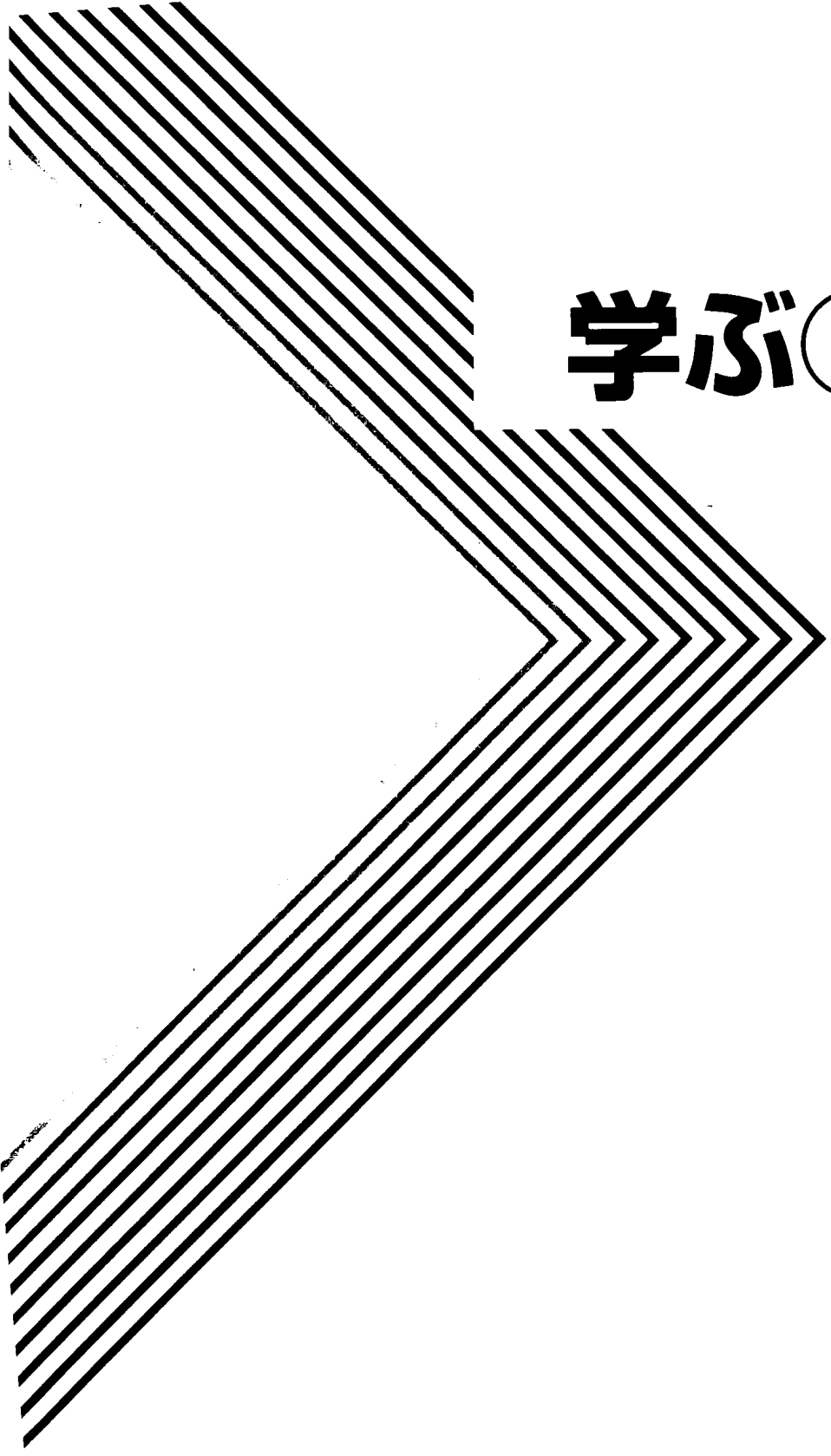
5 重要表現／文法

問題会話中に出る会話独特の表現および文法項目のうち、確認が必要なものを各場面ごとに4つ選び、問題会話に出てくる順番通りに番号をふってあります。そして、それぞれにつき必要最小限度の説明と例文を提示してあります。

3 本書の有効な使い方

本書はさまざまな使い方ができますが、特に日本留学試験を受験する方には以下のような使い方を提案します。

- (1) 「関連語句」を確認し「コラム」を読んで、実際の場面をできるかぎり推測してください。
- (2) 推測した状況を参考にしながら、「問題」を解きます。
- (3) 「スクリプト」を読んで、自分の答えの導き出し方を確認します。
- (4) 正しい答えを導き出せなかった場合、その原因を考えてください。その原因が会話表現や文法の理解不足にあるのか、語彙の知識不足にあるのか、それとも場面や状況の推測の誤りによるのか、あるいは、判断をくだす時間が長すぎるのかなど、人によってさまざまあると思います。
- (5) それぞれの原因に応じて自分に欠けている項目を補う努力をしてください。
- (6) 再度、模擬試験のようにすべての問題を解いてみてください。



学ぶ①

1

・オリエンテーション①

関連語句

●オリエンテーション		●取得単位	しゅとくたんい
●ガイダンス		●学年	がくねん
●科目登録	かもくとうろく	●学部	がくぶ
●登録申請	とうろくしんせい	●文学部	ぶんがくぶ
●申請する	しんせいする	●政治経済学部	せいじけいざいがくぶ
●登録手続き	とうろくてつづき	●法学部	ほうがくぶ
●手続きする	てつづきする	●商学部	しょうがくぶ
●履修する	りしゅうする	●理工学部	りこうがくぶ
●基礎教育科目	きそきょういくかもく	●医学部	いがくぶ
●専門科目	せんもんかもく	●芸術学部	げいじゅつがくぶ
●外国語科目	がいこくごかもく	●教育学部	きょういくがくぶ
●必修科目	ひっしゅうかもく	●学科	がっか
●選択科目	せんたくかもく	●進級	しんきゅう
●時間割	じかんわり	●留年	りゅうねん
●単位	たんい		

どんなことを学ぶのか

大学を卒業するためには、「4年以上在学し、124単位（医学部・歯学部は6年間・188単位）以上修得すること」が必要です。科目は、まず次の4つに分類されます。①一般教育科目、②外国語科目、③保健体育科目、④専門科目。②は諸外国語、③は保健理論の他、各種スポーツのことですが、①と④について、もう少し具体的に見てみましょう。

一般教育科目は教養科目ともいわれ、次の三つの分野に分けられます。

1. 「人文科学系」（文学・哲学・歴史など）
2. 「社会科学系」（政治学・経済学・社会学など）
3. 「自然科学系」（数学・物理学・化学など）

各専攻に即した内容を学ぶ専門科目には、一般教育科目のような講義の他、演習（ゼミ）と呼ばれるものがあります。特定のテーマごとに少人数のグループに分かれ、研究発表やディスカッションを行いながら学ぶのが特徴です。

こうした科目を、どの学年にどのくらい配分するかは、各大学に任されており、最近では1年次から専門科目を学べるなど、個性をアピールする大学が増えています。また、在学する大学のみならず、協定を結んだ他の大学の授業を受け、単位を取得できる「単位互換制度」の動きも活発になり、地域の大学、同じ学問領域を持つ大学で、広く学ぶことができる時代になってきました。

||||| 聴解問題

問題 1

正しい	①	②	③	④
正しくない	①	②	③	④

||||| 聴読解問題

問題 2

女子学生と男子学生が話しています。女子学生が自分で申請しなければならない科目はどれですか。

	1 時限目	2 時限目	3 時限目	4 時限目	5 時限目
月	英語	化学		現代美術	
火	フランス語		実験	実験	
水					

- 1. 英語と化学です。
- 2. 化学と実験です。
- 3. フランス語と現代美術です。
- 4. 英語とフランス語です。

≡≡≡ | スクリプト

問題 1



学生課の職員がオリエンテーションで学生に話しています。学生は何をしなければなりませんか。

履修科目の登録申請のしかたについては、今お話したとおりです。でも、申請をすれば、そのとおりに科目登録ができる、というわけではありません。決められた期間内に必ず結果を確認してください。

例えば、履修希望者が定員を超えた場合には抽選になりますから、申請したからといって必ずしも登録されるとは限りません。また、手続きに間違いがあって、申請した科目が登録されていない、ということもあります。

登録されていない授業に出席することはできませんし、当然、成績評価も与えられません。ですから、結果の確認は必ずしてください。

学生は何をしなければなりませんか。

1. 決められた期間がいつまでか確認する。
2. 申請した科目が登録されているかどうか確認する。
3. 登録されていない授業に出席できるかどうか確認する。
4. 成績評価の結果を確認する。

問題 2



女子学生と男子学生が話しています。女子学生が自分で申請しなければならない科目はどれですか。

男子学生： 何してるの？

女子学生： 時間割を作ってるの。

まだ、途中なんだけど、これをそのまま申請すればいいのよね？

男子学生： いや、違うよ。全部を申請する必要はないんだよ。

女子学生： えっ、どうして？

男子学生： 必修科目はわざわざ申請しなくてもいいんだ。自動登録されるから。

女子学生： そうなの？ じゃあ、まずこの英語は申請しなくていいわけね。

男子学生： そうそう。あれっ、君、化学なんかとるの？

女子学生： これは必修よ。私、理科系だって知らなかったの？

男子学生： 知らなかった。じゃあ、この実験も？

女子学生： もちろん。

男子学生： 2時間もあるんだね。理科系は必修が多くて、なんだか大変そうだね。

女子学生： そんなこともないけど。
男子学生： 必修はこれだけ？
女子学生： うん、ここまでのところはね。

重要表現／文法

- (1) ～（という）わけではない：すべて／いつも～とはいえない。
- A：君の部屋、本ばかりだね。よく読むんだねー。
 - B：いや、全部読んだわけじゃないよ。積んでおくだけの多いよ。
 - 先生のおっしゃることがいつも正しいというわけではないでしょう。
- (2) ～からといって（必ずしも）…とは限らない：～ということから考えて、必ず…とはいえない。
- 日本人だからといって、日本の文化についてよく知っているとは限りません。
 - 大学を卒業したからといって、必ずしもよい仕事に就けるとは限りません。
- (3) ～える：～することができる。～する可能性がある。能力を表す場合には使えない。
- あんなに話し合ったのに、こんな誤解も起こりえるのですね。
 - あの慎重な田中さんが失敗するなんてありえないと思います。
- (4) ～までのところ：～までの段階では。
- 先生：今までのところで、何か質問がありますか。
 - 学生：特にありません。
 - 工事はこれまでのところ、問題なく進んでいます。

2

・オリエンテーション②

関連語句

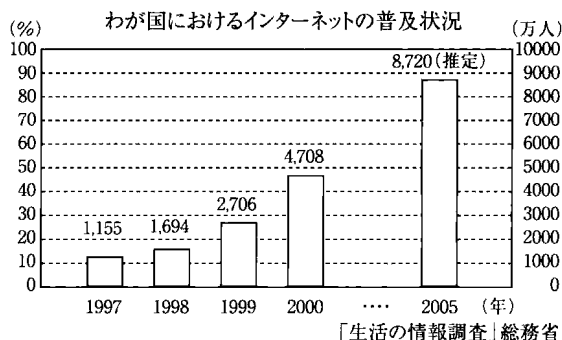
●副読本	ふくどくほん
●生協購買部	せいきょうこうばいぶ
●カリキュラム	
●休講	きゅうこう
●補講	ほこう
●掲示板	けいじばん
●講義	こうぎ
●教務課	きょうむか
●学生課	がくせいか
●就職課	しゅうしょくか
●健康診断	けんこうしんだん
●体育会	たいいくかい
●同窓会	どうそうかい
●～時限	～じげん
●奨学金	しょうがくきん

●授業料	じゅぎょうりょう
●納付	のうふ
●推薦状	すいせんじょう
●在学証明書	ざいがくしょうめいしょ
●成績証明書	せいせきしょうめいしょ
●卒業証明書	そつぎょうしょうめいしょ
●研究室	けんきゅうしつ
●大学院	だいがくいん
●修士課程	しゅうしかてい
●博士課程	はくしかてい
●教職課程	きょうしょくかてい
●学部生	がくぶせい
●院生	いんせい
●聴講生	ちようこうせい
●研究生	けんきゅうせい

キャンパスのIT化

政府の調査によると、2000年末におけるわが国のインターネット利用者数は、およそ4,700万人。1997年からのわずか3年間で4倍にも増加しています。「学校からの利用者」も372万人にのぼり、2005年には「国内すべての学校がインターネットに接続、すべての学生・生徒が利用し、総利用者数は8,700万人」と見込まれています。現在すでに、多くの大学で学校生活にコンピュータ・ネットワークは欠かせないものとなっており、履修登録や課題提出、情報収集もネット経由で行うところ

が増えています。このため、新入生全員にパソコン用のIDやEメールアドレスを交付して、学内のパソコンを自由に利用させる大学も増加し、ノートパソコンを1人1台貸与する学部も現れるなど、もはやITなしのキャンパスライフは考えられない時代となりました。休講や試験日程なども、携帯電話でネット接続し、キャンパスの掲示板も常にポケットから取り出せるというわけです。



聴解問題

問題 3

CD

4

正 し い	①	②	③	④
正しくない	①	②	③	④

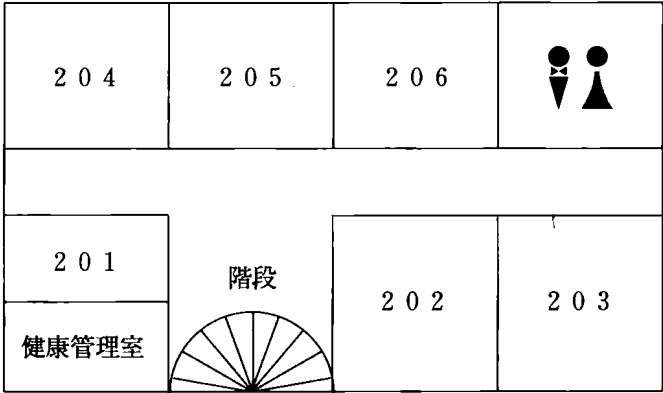
聴読解問題

問題 4

CD

5

教室で男子学生と女子学生が話しています。この2人がこれから講義を受ける教室はどこですか。



- 202
- 203
- 205
- 206